大島塾 新聞

ムロノキ
新聞社
号外

二〇二五年 浜田 ケンサキイカ釣り回顧録

一回目は七月一日、船は約二年ぶりのクセ強よ船頭の恵比寿丸。腰を痛めて一時休業していたが、幸い手術には至らず治ったとの事。浜田にしては珍しく凪の好天に恵まれ、港を出発した船はいつもより長い距離を東に走って、水深四〇㍍ほどの浅場にイカリを落とした。

「今はよくない。釣れても小さいんよ」と船頭がぼやいていたが、集魚灯が点く前からぽつぽつと当りがあって筆者は初めて明るいうちから七杯の釣果を得ていた。この調子なら「集魚灯が効いてきたらきっとウハウハよ」筆者、向根、木村いつもの三人みんな一様に期待を膨らませた。

七時半に集魚灯が点り相変わらず、ぽつぽつと釣り上がってくるのだが確かに小さいのが多い。胴長一〇㌢程度の小イカを専門用語で「ヤクルト」と呼ぶ。オモリグで底付近を中心に探っていた筆者にもかなり小いさめのイカが混じってきたが、イカメタルでタナを探っていた向根は、最終的に三〇数杯のうち半分以上がヤクルトだった。またこれまでだったら集魚灯が効いて一時間もすると次から次に釣れだしたものだったが、この度はずーっとぽつりぽつりのペースが変わらず、ヤマ場がなかった。結局木村も向根と同じような結果に終わり、筆者は三〇杯に満たなかった。

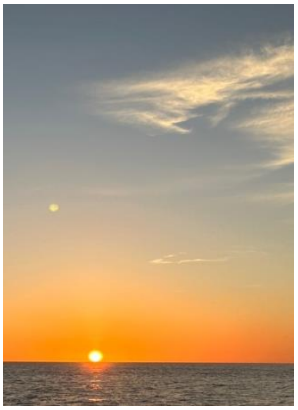
天気に阻まれることの多い山陰のイカ釣りだが、行ければ大漁間違いなしと決め込んでいたので、少々あてが外れた。それでも今季はまだあと二回予約をいれているから**「まあたまにはこんなこともあるんだ」**と高をくくった。

（広告）

二回目は七月二七日、昨年恵比寿丸休業のため急遽世話になった桐丸。この船頭はまだ若くて優しく、手際のよい男だった。船が恵比寿より一回り大きいこともあって、今回は大島塾マスターズ長老の宇田さんと光市の重安君にも声をかけ五人での釣行になった。

重安のルアーフィッシングは過去に本紙で何度も紹介したが、山陰のイカ釣りもかなり経験を積んでいるらしい。宇田さんは去年誘って一通り道具をそろえていたが、悪天候で中止になったため、今回が全く初めてのイカ釣り。「はたして釣れるだろうか」と不安を口にしていたが、我々三人が「集魚灯が効いてくれれば**誰でも釣れますよ**」と勇気づけ「一〇杯くらいは釣れるかねえ？」「いやいや二～三〇は堅いでしょう」と吹き上げたので、「そうかねぇ❤」とすっかりその気になった様子だった。

六時に出船した船は浜田港出口の西沖波止を過ぎて西へ一〇分ほど走ったところ、水深六〇㍍で投錨。この日も好天に恵まれ、凪の水平線に沈む夕日を眺めながら集魚灯を待った。



筆者と向根は船のみよし、残り三人は艫、船頭は舳先でそれぞれ釣りを始めた。そろそろ集魚効果が出て来るかと期待した八時、なかなか活性が上がらぬまま九時を過ぎた。向根はこの日もイカメタルでヤクルト主体にぽつぽつと。オモリグで底中心に探る筆者だったが多少ましなサイズながら、この時点でもまだ五～六杯に過ぎなかった。いっぽうで舳先の船頭はオモリグでコンスタントに型の良いイカを釣り続けていたらしい。残念ながら対角線上にいた筆者から船頭の釣り方の詳細は見えなかった。その隣で釣っていた重安も船頭と言葉を交わしながらそこそこの数を出していたそうだ。

そんなお寒い中、九時半を過ぎて突然向根があたかも火がついたかのように、胴長四〇センチの大剣サイズをふくむ良型を次々に釣り上げた。唖然とする筆者を尻目に最後までコンスタントに釣り続け、最終的に三〇杯近くを釣り上げた。筆者と木村は二〇に満たぬ貧果に終わった。

確かにイカの活性は相当に低かった。これは間違いない。そんな状況下でも船頭の釣果を考えると、このイカ釣りにあっても技量の差が歴然としている、言い換えると活性の低いときにこそ技術が輝く。

しかし特筆すべきは終盤の向根、きっと何かをつかんだに違いないと思い、根掘り葉掘り質問を投げかけた。要約すると「イカメタル仕掛け、おとなしめの誘いで、底周辺。おもりが浮いてきたら底をしつこく取り直す。重安君に勧められた餌木が良かった」と、こんなところだった。

この次は「まずシングルのイカメタル、はじめはシルエット系の赤や紫の餌木、オモリスッテは緑か？アタリがなければ同じくシルエット系の餌木でシングルのオモリグ、遠投できる金具のついたオモリを買っておこう。当りがでなければ餌木をローテーションさせていく。夜になったらダブルのオモリグで・・。そういえば赤テープが良いとか、今年はゼブラカラーがあたりだとか、ニンジンカラーで爆釣とか～ああもうわからん」とにかくこれからは底を上手に釣れるようになりたい。

そうこうしながら八月二六日、**三度目**の浜田(今回は恵比寿丸)が近づいてきた。数日前まで穏やかな天気が予想されていたのだが、二日前から急に怪しくなってとうとう当日恵比寿丸から中止が言い渡された。今期好天で二回行けたことは幸運だった、とある程度納得しているのだが、いかんせん釣果がね・・。向根に中止を告げる恵比寿丸の電話口から「一週間くらい前から**急に釣れだした**」と付け加えられた。あな口惜しや。

山陰ケンサキイカ釣りは最近ちょっとしたブームになっていて、職場の仲間の何人もがチャレンジしているが、我々以外は大雨や悪天候に阻まれてうまいこれまで具合に行けていなかった。そんな彼らに向根が「かわいそう」などといいながら、明らかに目の奥が笑っていたのを思い出した(ちょっと前まで己の雨男ぶりを嘆いていたのにね。

まさにこれを書き上げた今日八月三〇日、仲間数名が釣りに向かっている。予報では空は好天、海は高活性に恵まれているようだ。我々は彼らの幸せを心から願っています・ちっ！

今期のイカゲーム、これにて終了

（福）

GALLERY

2025. 向根コレクション